

2023（令和5）年度市政懇談会 開催結果概要

●日 時 令和5年7月14日（金）午後2時00分～

●会 場 鳥取北会館

●参加者 10人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

- (1) 釧路市の防災の取り組みについて
- (2) 市立釧路総合病院の新棟建設事業等の進捗について
- (3) 都心部まちづくりについて
- (4) 町内会への取り組みについて

●意見交換

【参加者A】

都心部まちづくりについて、北大通で一番目立つ元丸ト北村が、大きな地震が来ると崩れるのではないかと思います。昔のヤスモトのビル、丸三のビルがずっとあって、シャッター通り・ゴーストタウンになってしまっています。駅の高架化も素晴らしいですが、まずあの辺を小さな街で良いので、凝った街にするべきではないでしょうか。長期滞在も多いですから、1回北大通を壊して新しい街にして、例えば釧路だけにしかない旬のサンマの刺身が食べられるなど歩いてゆっくり買い物できる北大通にするべきです。また、釧路川の堤防の街灯が夜にNHKのテレビで見るとものすごく綺麗です。それを活かしたら小樽の街に負けないくらい綺麗になると思います。もう少し北大通を中心にかわいい街にして、子どもたちが喜ぶ街にしたらいいのではないかと思います。

もう一つ災害について、避難場所が153か所あるのですが、どこにあるか分からないので、スマホを見なくても何かあったときに走っていけるようにハザードマップの裏側や町内会報に各町内会の避難場所を載せてもらえればと思います。

【市長】

空きビルにつきましては、法律改正を国や北海道市長会、全国市長会などにも要望をしているところです。実は空きビルは都会にはなく、地方都市にのみ存在しております。地価の高いところは、新しい建物を建てることによって収益が見込めるため、都会に空きビルは存在しないのです。地方都市は壊す費用が大変な中、新しい建物を建てても収益の見込みがないため、そのままにしておくことが一番お金がかからない形になっています。

現状の法律の中では、所有者の権利の中で市がお金を支払うことで壊すことはできますが、壊した後の土地は所有者の資産になります。全く義務を果たさな

い個人の方に公のお金を入れて、個人の資産を増やすこの法律がおかしいため、壊す際には土地の所有権を市に譲ってほしいと話しています。この法律さえ変われば空きビル問題に対応できますし、今後地方都市では空きビルは発生しないのです。それが法のベースであるべきだと国へ要請していますが、中々進んでおりません。空きビルの所有者が地域の方で、釧路市に愛着がある場合はそのままにしないと思いますが、街中にある約20個の空きビルの所有者に地元の方がいません。

この仕組みの中で空き家対策特別措置法が7年前に出来ました。壊すにしても個人の権利が優先される法体系になっていますので、個人の権利も大事であります。公の観点がどうなっているのかと言いつけていきたくと思っています。

リバーサイドについて、釧路川は日本でも珍しい街中にある穏やかな川で、この素晴らしいものを発揮できるように色々と相談しながら進めてまいりたいと思っています。

災害について、避難場所は現在153か所ありますが、どんどん増やしている最中でありまして、どこでも近くのところへ逃げて命が救えれば良いので、今後民間も含めて避難所の確保をお願いしていきます。ペーパーで配布するのは1年に1回程度になると思います。

【防災危機管理課】

以前、避難場所を40か所増やしたときに、色々出前講座を行いながら連合町内会さんを通じて紙を出させていただきました。

【市長】

避難所が増えていったことをどのように伝えていくか、ペーパー等どのような形にできるかを考えながら進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

【参加者B】

実際に釧路市で持っている旧科学館、旧図書館などを目に見える形で市民に1つ1つ片づけてもらいたいです。やるかやらないかがわからず、釧路市も放置しているのではないかと私たちには見えています。以前、鳥取西児童センターの話をした際、市長と当時の福祉部長が見てくれました。その時に、集約させるという計画を聞きましたが、私たちにはそれが一切見えてこないです。今どんな進捗状況であるのかが見えません。松浦児童センターが地域のコミュニティセンターと一緒に作られているのは先日見てきましたが、以前伺った計画がどのような経緯か是非とも見える形にしてほしいと思います。

町内会の人に避難場所も含めて、回覧板で伝える機会がありますが、中々伝わらないのが現実です。町内会でも様々意見は出ますが実際にそうならないと(避

難場所を)聞きに来ないと思います。地域のコミュニティを図りながら是非とも行政からも町内会の加入を応援してもらいたいと思っています。

もう一つ、避難場所の件ですが、ブラックアウトの時に町内会で炊き出しをしようとした際に、コア鳥取の指定管理者の美警さんは「市の許可を貰わないと出来ない」、市のほうは「上司に聞いてみなければわからない」と言いながら、そのまま2日経って電気が点いてしまって、結局誰からも返事が来ませんでした。地域の声がどのように行政の中に響いて市民に返ってくるのかを是非お知らせしてもらいたいと思います。

【市長】

釧路市の使用していない施設については、管理をしっかり行っているかがポイントになってくると考えており、しっかりと管理しています。その上で、まちづくりを考える際、釧路川やまなぼつとの一番景色のいい場所が駐車場になっている事など、議論すべき課題は様々あります。一つのをどうするかでなく、全体を考えながらまちづくりを進めて行くべきと考えます。

また、令和8年に港湾計画の改訂を行うに当たり、ワークショップを立ち上げ、若い世代の方の意見も聞きながら、リバーサイド・街をどのようにしていくのか議論しています。基本の考え方がまとまらないと、まちづくりを進められないと考えており、今後も議論を進めて行きます。

次に鳥取西児童センターの件について、釧路市の人口が22万人の時に、人口25万人を目指してまちづくりを進めてきました。現在、人口が16万人を切ってしまった中、公有資産マネジメントと呼ばれていますが、使っている機能等をあわせながら、リニューアルもしくは新しいものにしていき、進めていこうという考え方があります。その中で、まずは緑ヶ岡、松浦の老朽化した児童館や周辺の地区会館の複合化を実施しました。その中でポイントにしたのは避難所の確保で、昨年3月に基準水位が発表された際に、まずは避難所の確保ができているところで止まっているところです。全く話がないことは極めて失礼な話だと思いますので、お詫び申し上げまして、検討状況等はしっかりとお伝えできるようにしたいと思います。ブラックアウトのときの炊き出しと同様に、要支援の人に役所が電話をかけて、手助けが必要であれば避難所に連れていく仕組みについても、実は机上の空論で成り立たないのです。色々なルールや許可制度の中で、どのようなやり方ができるのか相談して、判断は速やかに出来なければなりません。ブラックアウトの時に稟議書を回していたら意味がないですから、速やかに出来るのが我々現場だと思っています。普段のルールはルールとして速やかに対応出来る仕組みを話していきたいと思っています。

【参加者B】

釧路市で持っている建物の安全性を保っているのはわかったうえで、是非それを形にさせていただきたいです。先送りにせず、いつまでにこれは片づけるなど、市民の声を聴いたうえで、指針を市民に知らせてもらうことが私の切な思いです。災害の時の炊き出しの話ではないですけど、遠野市のボランティアセンターの責任者とお話したときに、遠野市は内陸から南三陸に対して津波で大変な状況で、市民総出で炊き出しをしておにぎりを運ぼうとしたら、県の保健所の方から食中毒があったら困るからやめてくれと言われました。しかし、市長は「何を言っている。現場も知らないで。」と一切無視したと聞きました。実際その時に誰が責任を持つのか。是非とも市長にはこういうケースがあったということをして市の中で決めていただきたいと思います。

【市長】

そんなときにルールを言うことは信じられない話であります。基本的にいろいろな判断はこちらの方に来ますので、私どもの責任になってくると思いますが、色々出来るようにしたいと思っています。

あわせて、先送りにしているわけではなく、駅周辺の話は現状のまま車中心のまちづくりを続けていくのかどうかということです。それが最大のポイントで、中身はみんな考えて様々進めてもらえればよいのですが、何とか少しでも見える形にしていきたいと思っています。

【参加者C】

釧路市議会6月定例会で、釧路湿原及び動植物の保護並びにメガソーラーの規制を求める件の陳情が賛成少数で不採択になりましたが、これからも太陽光パネルの規制はしていくのでしょうか。

【市長】

議会の中で不採択になりましたが、法律の範囲でどれだけ制限できるのかということです。例えば、先ほど空きビルの話もしましたが、所有者が自分の土地でどうするかということであって、今の法律の中では制限ができない。今回の陳情については、法律を超えているという意味合いで押さえております。

【参加者C】

太陽光パネルは寿命が短く、環境に悪影響を与えるという観点から質問します。今釧路湿原、西港インターチェンジのところにメガソーラーを設置しており、名前が釧路市北第一・第二太陽光発電所という名前になっております。これは釧路市の管理でよろしいのでしょうか。

【市長】

我々は太陽光パネルを持っておりません。

【参加者C】

釧路市では一切関わっていないということですが、湿原に太陽光パネルを設置されるとどうしても景観が良くないことと、安全性の問題が出てくるわけです。例えば台風・大雨・津波などがきて、パネルに損傷を与えた場合、水中で感電しないのかという問題や、15～20年という寿命が短い問題について、その対処について教えてください。

【市長】

先ほども言いましたように法律の範囲内でどれだけ制限できるかが重要であり、空きビルも同じで、古くなったときにどうしたら一番得かを考えると、そのままにしておくのが良いこととなります。私はこれを懸念していますので、どこまでできるのかということも踏まえていきながら、国に対し要望するなど様々な対応をしています。地方自治体は国の法律を超えることはできないのです。

【参加者C】

隣の鶴居村は条例で太陽光パネル規制をしました。

【市長】

中身は、ほぼ同じです。

【参加者C】

中身がほぼ同じとのことですが、釧路市でも規制をかけているのですか。

【市長】

規制というのは国の法律を超えて行うことはできません。釧路市には今回のガイドラインを作る前から規制はあったと認識しています。今までの太陽光設置のメリットは、FITという再生可能エネルギーの固定価格買取制度による買取価格が高いことです。これがインセンティブとなって太陽光を前に進めていくための仕組みです。つまり収益です。適用する場合には、それぞれの自治体のガイドラインや条例を遵守することが入っています。そのような中で色々規制しています。

【参加者C】

条件を全部クリアした場合は、太陽光パネルを設置しても良いということですよ。我々はそれを何とかしてくださいと言っているのです。それを条例で出来ないのかということですよ。もう一つ、私の情報が古いのかもしれませんが、釧路市役所のどこかの部署が太陽光パネルを400ha設置するという話をしていたと思います。将来的には東京ドーム1000個分のソーラーパネルを引きたいという考えがあると聞いたのですが、事実はどうなのか聞きたいです。

【市長】

報道として出たみたいですが、私は知りません。

【参加者C】

把握はしていないのですか。

【市長】

太陽光パネルを建てる時は、建築確認申請が来ない仕組みになっています。

【参加者C】

市では、太陽光パネルは条件がクリア出来たら認めるという形で考えているということですか。

【市長】

何度もお話ししていますが、条例ではなく、日本の国の法律で定められています。基本的にガイドラインでは自然との共生をメインとしていて、すべてにおいて太陽光パネルがだめということは言っていません。あくまでも今のカーボンニュートラルを踏まえていったときに、太陽光、風力、地熱などと、どのようにバランスをとっていくのが重要です。そのことで色々な自然環境や自然との共生を妨げることにならないように、様々な団体の方と話し合いながら可能な限り法律の範囲内でガイドラインを策定していったものです。

【参加者C】

それに付随して、風力発電の塔を釧路市で建てるという考えはあるのでしょうか。

【市長】

様々な民間事業者が企画しながら行っていくところでありますので、景観等を踏まえて難しい問題であると思いますが、議論があると思います。

【参加者C】

タンチョウが釧路にいますので、是非風力発電をやめてほしいという願いでした。

また、西港に中国の貨物船が入ってきているのはご存知でしょうか。

【都市整備部長】

外国船が入るときについては、入港届が出ることになっています。

【参加者C】

中国が頻繁に入ってくると、恐怖があります。世界各国で中国がお金を多く落としてバルク港にしようという考えでやっている感じがあります。釧路西港が中国の一带一路の観点で、釧路西港をバルク港にしたいという考えを持っていると思いますが、どうでしょうか。

【市長】

日本は経済成長を果たしましたが、日本の国土というものを真剣に考えていくことだと思います。バルク港がスタートした際、穀物分野で選定された港湾の中では、釧路港は輸入とうもろこしの取扱量が一番少なかったですが、アメリカに一番近い港が釧路港です。つまり、国土を見てどう活用していくかという観点に立ちますと、アメリカを見たときに、釧路港が一番近く、一定程度整備されて

いるとの見方は極めてノーマルな見方だと思います。いつも国に対してその話をしていきます。本来、日本国の力で国力を上げていくために、この釧路を活用していきながら国土利用をしていくべきと考えます。釧路の可能性が極めて高いという見方をしているのは、客観的に見て、さらに良くなるベースがしっかりあるのだと受け止めています。

【参加者B】

市長が若い職員に「3割バッターでもいいからまちづくりに係る提案をしてもらいたい」と伝えているという話を常々聞いています。ぜひ市長も同じような気持ちで、若い職員のやる気を出して市長自らやっていただければと思います。つまり、先ほどのバルク港はスタートラインだと思っていて、その後のと畜場のことについては、釧路市より釧路町の営業力が勝り、地理的な場所や農業団体の中で釧路町になったのは不本意で少し残念ですけれども、市長自ら全部出来ることではないと思いますが、市の職員の色々な思いを座談会形式でも良いので、市民と一緒に意見が言える場を作ってほしいと思っています。

【市長】

色々お話していくことが重要であると考えます。行政、市民、会社もですが、地域にいる方々がチームだと思っておりますので、共通の認識等を話しながら進めていくべきであり、そこの垣根は出来るだけ無いような形で進めるよう努めていきたいと思っております。

これまで、行政は1戦1勝で成功することしかやってきませんでした。ですから、失敗してもいいので色々なことに取り組んでいきたいと思いますというマインドで私も含めて努めてまいります。